

負債比率の求め方 早わかりガイド



※当資料に従うことで、法令違反がないことを保証する資料ではありません。
※あくまで参考としてご活用いただくことを想定している資料です。実際の制度内容は国の資料等をご確認ください。
※当資料は、2025年12月時点の内容となっております。最新の情報は国の資料等をご確認ください。

負債比率の求め方 早わかりガイド

■ 負債比率の基礎知識

負債比率とは、企業の財務状況を分析する際に用いられる重要な指標の一つです。自己資本に対して、負債がどれだけの割合を占めているかを示します。この数値を算出することで、企業が他者からの借入にどの程度依存しているか、財務の安全性や余裕度を把握することができます。

負債比率の計算式

$$\text{負債比率（%）} = \text{負債} \div \text{自己資本} \times 100$$

＜計算例＞ 負債総額が500億円、自己資本が250億円の場合 $500\text{億円} \div 250\text{億円} \times 100 = 200\%$ → 自己資本に対して2倍の負債を抱えている状態とわかります。

自己資本比率との違い

- ・**負債比率**：自己資本に対する「負債」の割合
- ・**自己資本比率**：総資産に対する「自己資本」の割合

双方は密接に関係していますが、視点や計算の分母が異なります。

負債比率の求め方 早わかりガイド

Ⅰ 負債比率の適正目安とリスク判定

適正な負債比率は、一般的に「100%以下」が望ましいとされています。これは自己資本と負債がバランスよく活用されており、過度な借入依存がない状態です。ただし、100%を超えていても300%程度までであれば、標準的な水準とみなされます。

負債比率による状況判断の目安

- ・ 100%以下 【評価】 理想 【状況】 財務が安定的
- ・ 101～300% 【評価】 標準 【状況】 返済能力に問題なし
- ・ 301～600% 【評価】 要注意 【状況】 300%以下への改善推奨
- ・ 601%以上 【評価】 危険 【状況】 返済等に問題が生じる恐れ

※901%以上の場合は倒産が懸念される水準となります。

負債比率の求め方 早わかりガイド

業界別平均とM&Aで重要な有利子負債比率

負債比率は業種により平均値が異なります。自社の数値を評価する際は、同業種の平均値や、M&A等の場面で重視される「有利子負債比率」も確認しましょう。

業界別 平均負債比率（中小企業庁 2017年度指標より）

- ・宿泊業、飲食サービス業：380.12%
- ・運輸業、郵便業：183.12%
- ・建設業：144.85%
- ・製造業：119.30%
- ・情報通信業：81.10%

負債比率の求め方 早わかりガイド

M&A等で重視される有利子負債比率

単なる負債比率に加え、利子の支払いを伴う負債（借入金や社債など）に限定した比率も重要です。

- ・計算式：有利子負債 ÷ 自己資本 × 100
- ・目安：中小企業であれば「100%以下」が適正

負債比率が標準内（300%以下）であっても、有利子負債の割合が高い場合は注意が必要です。